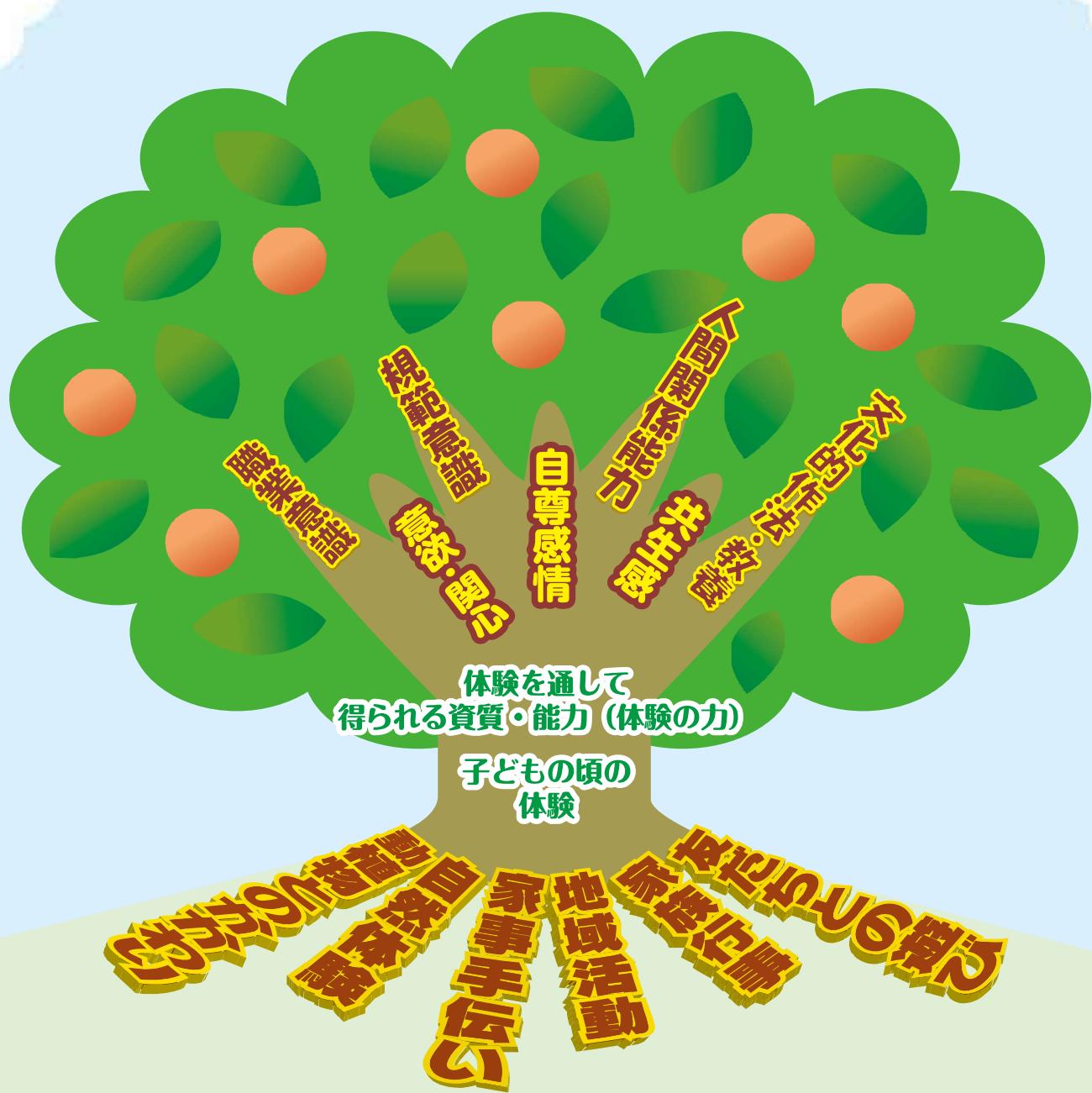


体験の風を
おこそう



かわいい子には体験を!

—子どもの頃の体験は人生の基盤—

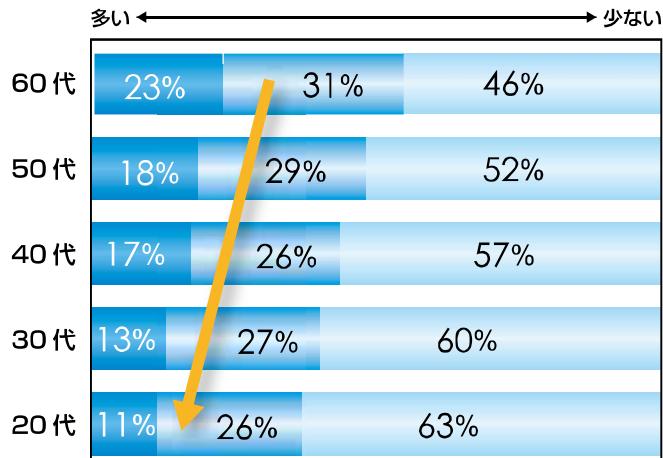


National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

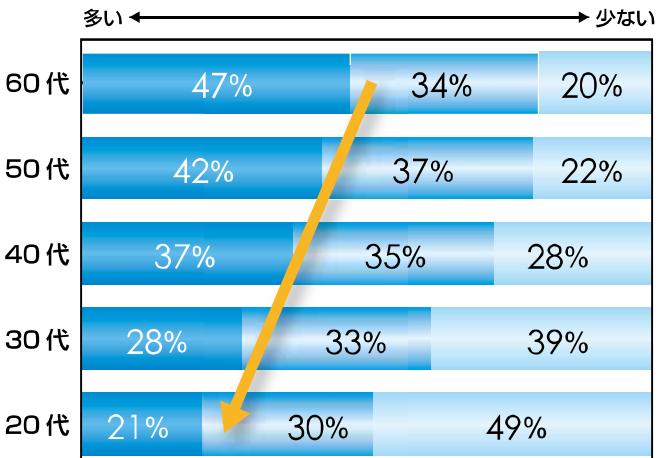
自然体験や友だちとの遊びが減っています

60代から20代まで、年代別に調査を行ったところ、自然体験や友だちとの遊びが、若い年代ほど減っていることがわかりました。

中学生の頃に海や川で貝を採ったり
魚を釣ったりしたことの推移



小学校4～6年生の頃にすもうや
おしくらまんじゅうをしたことの推移



みなさんは、どんな体験をしていますか？
家族や友だちと一緒に、イラストを見ながら
普段の体験をチェックしてみましょう！

チェック！



自然の中で活動する



友だちと遊ぶ



動植物の世話ををする



地域の行事に参加する



家族で行事を行う

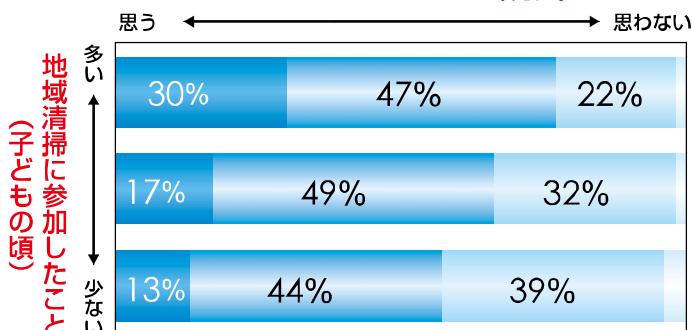


家のお手伝いをする

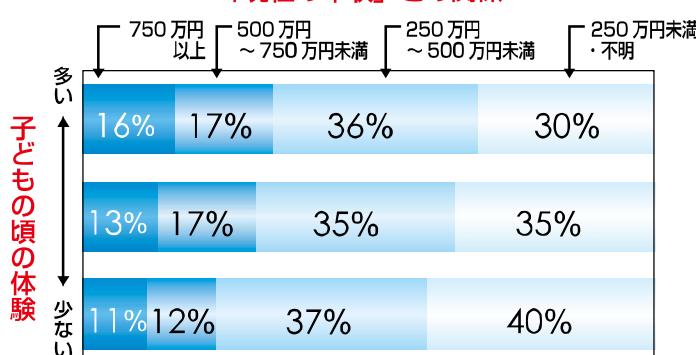
子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります

子どもの頃の体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力などの資質・能力が高い傾向があります。また、こうした子どもの頃の体験が豊富な人ほど、現在の年収が高く、1ヶ月に読む本の冊数も多くなる傾向にあります。

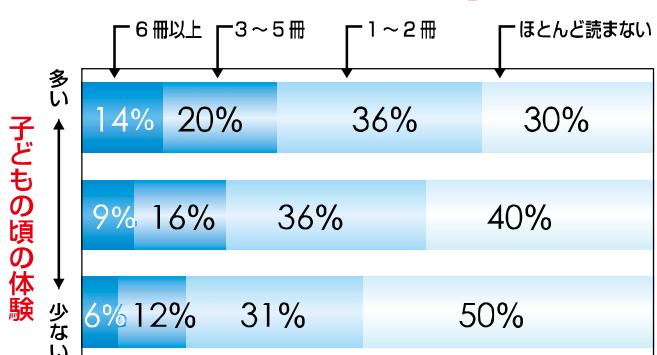
経験したことないことには何でも
チャレンジしてみたい（現在）



子どもの頃の体験と
「現在の年収」との関係



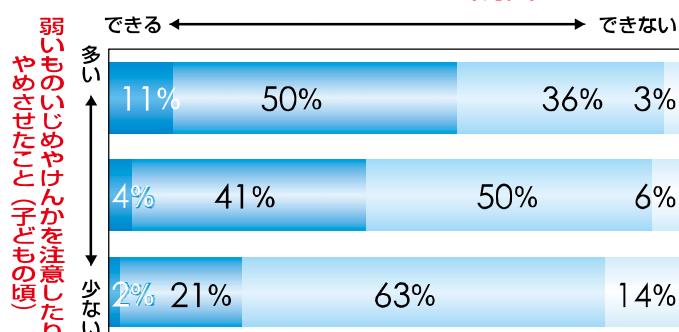
子どもの頃の体験と
「1ヶ月に読む本の冊数」との関係



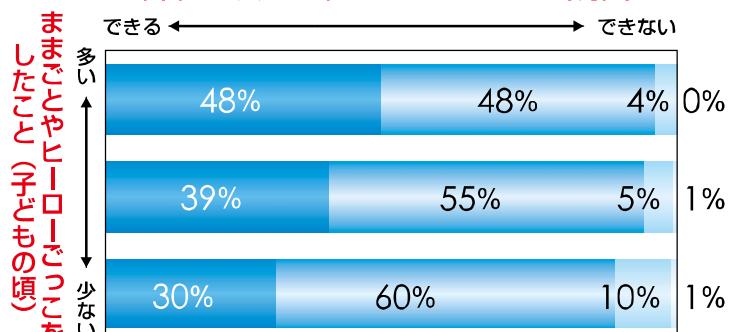
子どもの頃は家庭や地域などで様々な体験をすることが大切です

「弱いもののいじめやけんかを注意したり、やめさせたこと」が多いほど、「けんかをした友だちを仲直りさせることができる」というように相互の関連が見いだしやすい項目の間だけでなく、「ままごとやヒーローごっこをしたこと」と「電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」といった、直接の関連が見いだしにくい項目の間にも相関関係が見られます。大人になってからの資質・能力は、家庭や地域における子どもの頃の様々な体験と関係しています。

けんかをした友だちを仲直り
させることができる（現在）

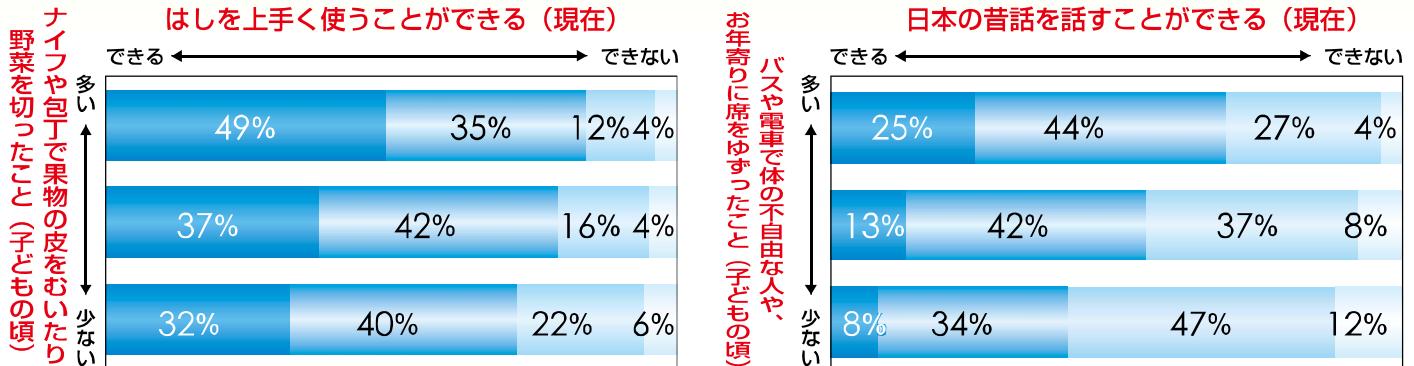


電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の
不自由な人には席をゆずろうと思う（現在）



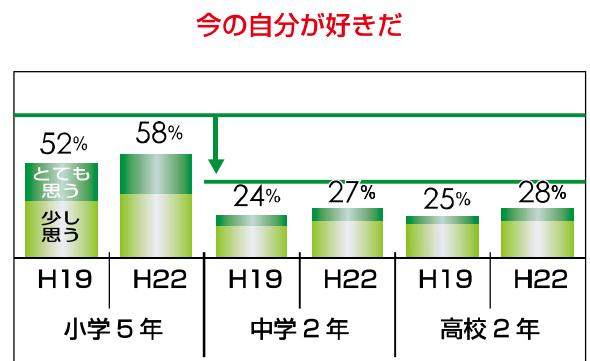
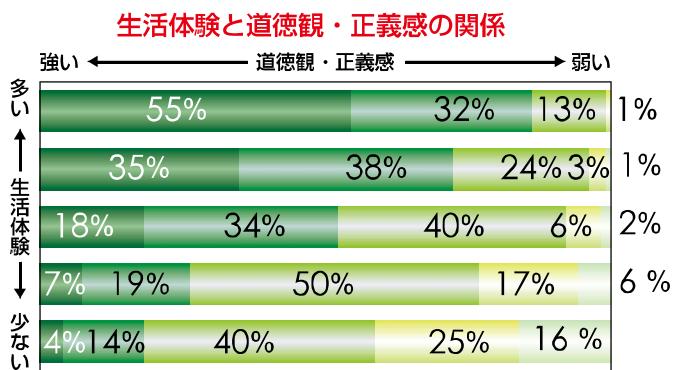
日本の伝統的な作法や教養も子どもの頃の体験と関係しています

日本の伝統的な作法や教養も、自然体験、動植物とのかかわり、友だちとの遊び、地域活動、家族行事、家事手伝いなどの子どもの頃の幅広い体験と関係しています。



中学生になってもお手伝いや地域活動が効果的です

体験が豊富な青少年ほど道徳観・正義感が強い傾向にあります。また、中高生は小学生に比べて、自己肯定感が低くなっていますが、体験が多い青少年ほど、自己肯定感が高い傾向にあることもわかっています。中高生は、勉強や部活で忙しいかも知れませんが、体験は大切です。

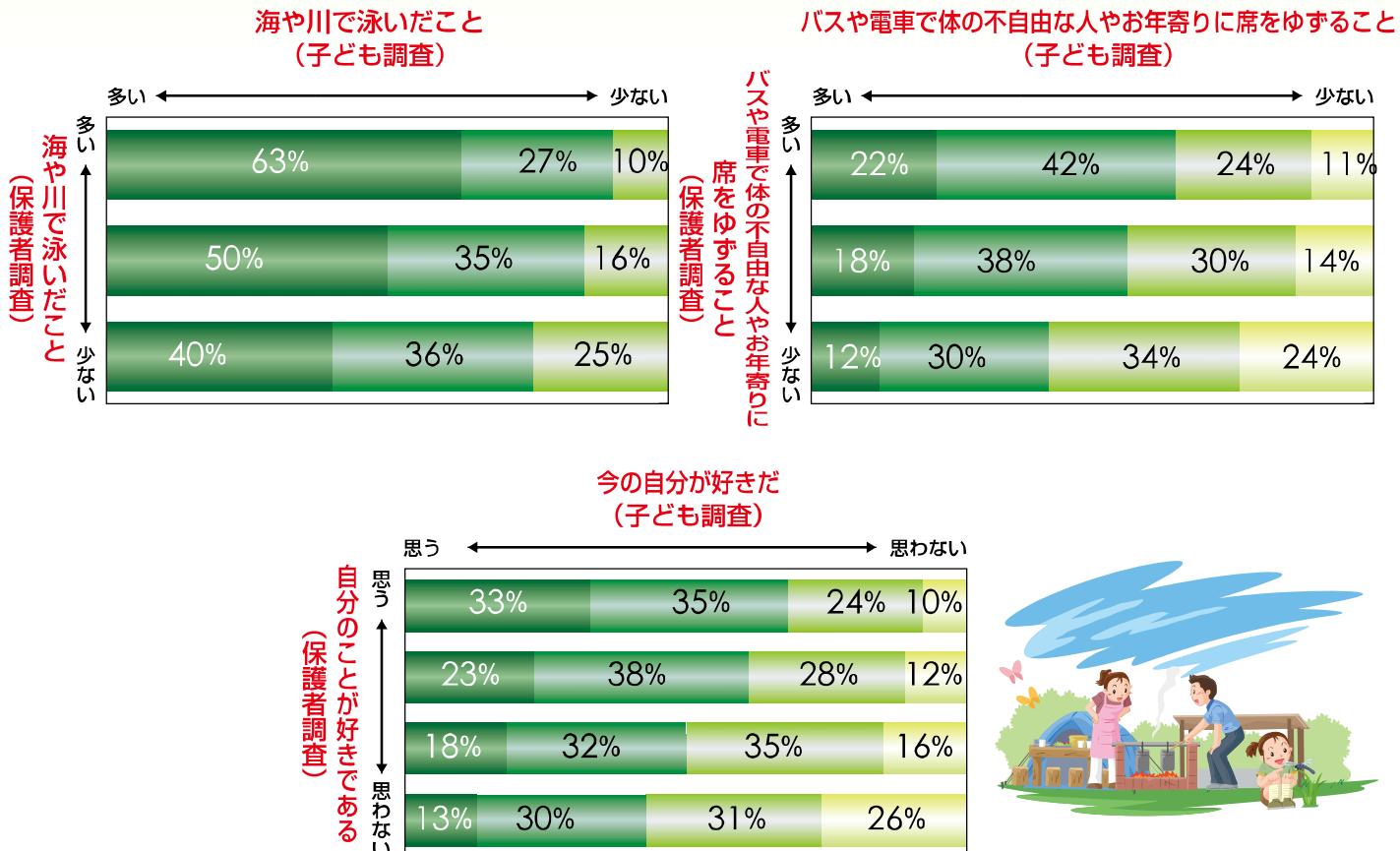


国立青少年教育振興機構では、子どもの頃の体験（自然体験、動植物とのかかわり、友だちとの遊び、地域活動、家族行事、家事手伝い）によって、得られる資質・能力（自尊感情、共生感、意欲・関心、規範意識、職業意識、人間関係能力、文化的な作法・教養）について調査研究会（座長 明石要一 千葉大学教育学部教授^(当時)）を設け、成人（20代～60代 5,000人）を対象に調査を実施しました。あわせて、青少年の自然体験、生活体験・習慣の実態や自立に関する意識等について、青少年（小学校4年生から高校生約19,000人）を対象に実施した調査結果についても提示しています。

出典：「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」、「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」

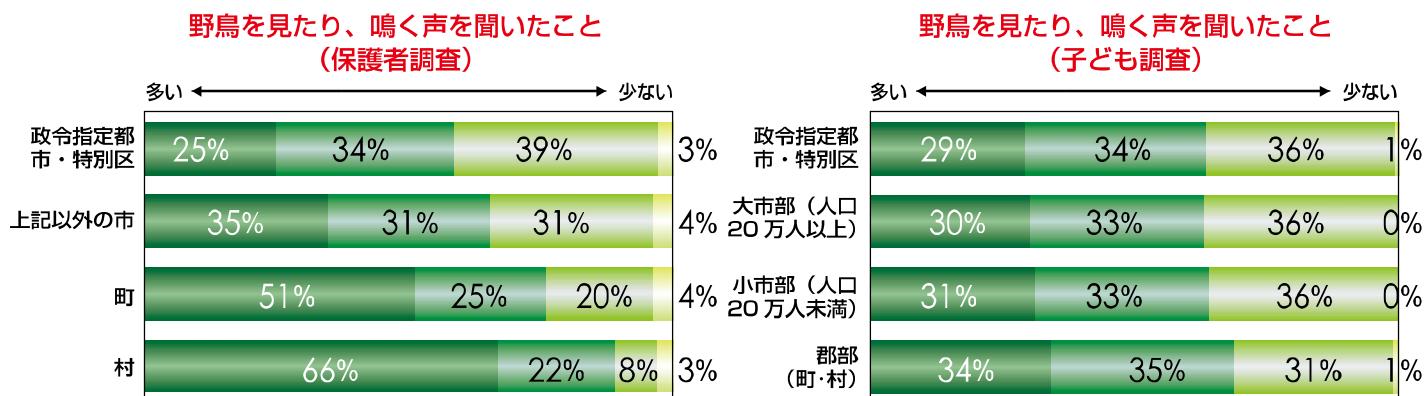
子どもの体験や意識は、親の体験や意識と関係しています

子どもの頃に多く体験を行ってきた保護者ほど、その子どもも体験を多く行う傾向にあることがわかりました。また、自己肯定感の高い保護者ほど、その子どもも自己肯定感が高い傾向にあるなど、保護者の体験や意識は子どもに大きな影響を与えています。



現在の子どもたちは、住んでいる地域による体験の差はほとんどありません

保護者が子どもの頃に自然体験を行った頻度は、中学生までの居住地の種類によって違いが見られましたが、現在の子どもたちの自然体験については、居住地の種類による違いはほとんど見られませんでした。



「体験の風をおこそう」運動[®]を推進しています

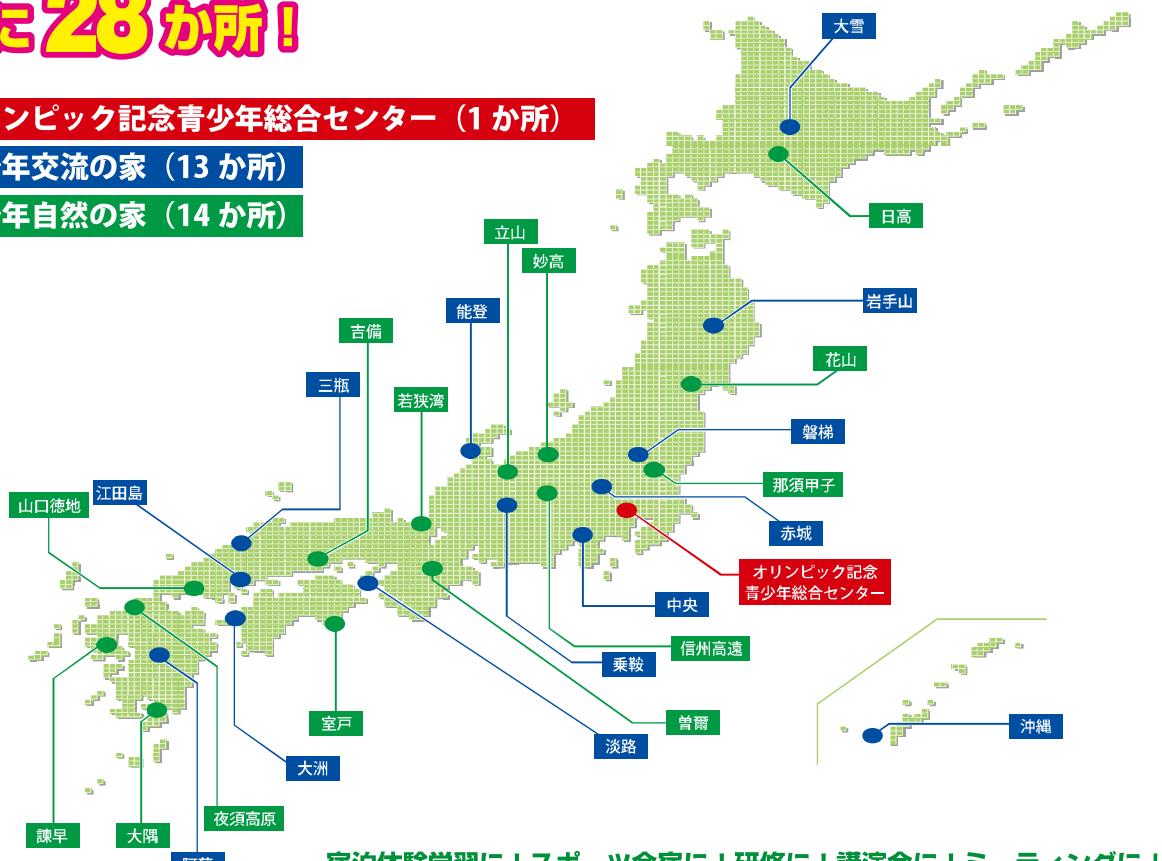
国立青少年教育振興機構では、
社会全体で体験活動を推進する機運を高める運動を
他の青少年団体と連携し進めています。
近年、社会が豊かで便利になる中で、
子どもたちの自然体験、社会体験、生活体験などの
体験が減少している状況をふまえ、
子どもたちの健やかな成長にとって、
体験がいかに大切であるかを
広く家庭や社会に伝えていきたいと思います。



「体験の風をおこそう」運動
イメージイラスト
(作:漫画家・松本零士氏)

青少年の体験活動をサポートする国立青少年教育施設が 全国に**28**か所!

- 国立オリンピック記念青少年総合センター（1か所）
- 国立青少年交流の家（13か所）
- 国立青少年自然の家（14か所）



宿泊体験学習に！スポーツ合宿に！研修に！講演会に！ミーティングに！



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
青少年教育研究センター / 総務企画部調査・広報課
<http://www.niye.go.jp> TEL 03-6407-7742

くわしくはこちら 青少年機構 検索

平成 27 年 12 月